館の特色

- 鎌倉時代の地方豪族（武士）の館を参考にした主殿造りです。
- 当時の主屋内部は、柱だけで間仕切りはありません。必要に応じて几帳（室内の仕切りに立てた道具）や衝立などで仕切って使用しました。
- 主屋には主人と家族が住み、入り口の中門には宿直（宿泊して警戒をすること）の武士が控えました。
- 主屋の屋根は、本来わら葺きですが、防火のため、わら葺風銅板葺きにしました。
- 館は当時の単位で1間が7尺（約2.1m、一部8尺）間隔で柱を建てました。

納屋

厩

主　屋

開館時間

午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）

休館日

月　曜　日（祝休日のときはその翌日）
年末年始（12月28日～1月4日）

入館料無料

【交通案内】

- JR常磐線勝田駅より茨城交通バスで「武田本町」下車徒歩約10分
- 東水戸道路ひたちなかICより車で約20分

たけ　だ　し　やかた

武田氏館

〒312-0025　茨城県ひたちなか市武田566-2／TEL　029-276-2525

VEGETABLE OIL INK 植生油インキ
再生紙と植物油インキを使用しています。
25.3

入館記念スタンプ

武田氏館

甲斐武田氏発祥の地

ひたちなか市教育委員会

甲斐武田氏発祥の地

ひたちなか市武田は、戦国時代の名将武田信玄（晴信）で知られる甲斐武田氏の発祥の地です。平安時代末期（12世紀初め頃）、源義家の弟義光は、常陸国への進出を図り、長男義業を久慈郡佐竹郷（常陸太田市）に、三男の義清を当市域の那賀郡武田郷に土着させました。義清は地名をとって武田を名字とし、武田氏の始祖となりました。また、義業の子昌義は、中世・戦国時代に常陸国に君臨した佐竹氏の祖となりました。

義清とその子清光は、武田郷周辺の古くからの豪族との間で勢力を張り合っていましたが、そのゆき過ぎた行為を朝廷に訴えられ、その結果、義清父子は甲斐国に配流となってしまいました。甲斐の国に土着した義清父子は、新天地に甲斐源氏発展の基盤を築き、その17代後に信玄が生まれました。

義清父子が住んだ館は、那珂川を見下ろす武田台地の突端部にあったといわれており、この近くに「武田氏館」を建設しました。この館は、昔の絵巻物などを参考にして再現した建物で、主屋と納屋、厩を配置し、館の正面には門、板塀、堀があり、主屋の造りは、主屋と玄関をつなぐ中門の張り出しが特徴の主殿造りと呼ばれる建築様式です。

佐竹・武田氏系図

源義光 ― （佐竹）義業 ― 昌義 ― 隆義 …… 義重

源義光 ― 実光

源義光 ― （武田）①義清 ― ②清光 ― 信義 …… 晴信（信玄）

①刑部三郎　武田冠者　母は常陸住人鹿島（吉田の誤り）清幹の女
久安五年七月廿三日市川荘にて卒す　七十五歳

②逸見黒源太と号す　母は上野介兼宗の女
天永元年六月九日生　仁安三年七月八日甲州にて卒す　五十九歳

義清像

清光像

大鎧

館案内図

主な展示資料

■甲斐武田氏発祥の地についての資料
- 武田氏系図・長秋記・尊卑分脈等パネル
- 義清・清光の武者人形

■甲冑などの武器・武具類
- 鎧（楯無鎧をイメージしたもの）
- 弓
- 刀
- 鐙

■歴史資料
- 武田遺跡群の発掘調査出土資料　等